

今後の対応方策

課題 1. 組織強化によるナシ産地の活性化

(対象：東部農業事務所普及指導課)

- 1 支援対象となる組織や支援する目的・内容を明確化し、より具体的な課題に取り組みます。
- 2 販売支援を強化し、具体的な有利販売策について計画に取り入れます。
- 3 既存農家への支援策についても明記し、産地全体への支援内容がわかるように記述します。
- 4 引き続き、担い手受け入れ体勢の強化は最重点課題として考え、ナシ協議会や町・JAなどと一丸となって取り組む課題とします。

課題 2. 雨よけハウス軟弱野菜産地の強化

(対象：東部農業事務所普及指導課)

- 1 年々厳しくなる高温期の栽培安定化対策として、遮光資材による温度管理や自動かん水技術等を検証し、藪塚地域に適した技術の普及を図っていきます。
- 2 異物混入防止対策として GAP 手法を活用し、今後も県内屈指のハウレンソウ産地として安心と品質をより高めるための支援を行います。
- 3 近年、ハウレンソウケナガコナダニの吸汁被害が急増してきたため、これらの防除対策を確立し、周年出荷体制の維持と生産農家の経営安定を図ります。
- 4 今後も JA 等関係機関と連携し、生産者の経営安定のために主軸となるハウレンソウ生産を維持しつつも有利性の高い作物の検証・導入を図ります。

課題 3. 中山間地域における耕作放棄地の発生防止に向けた取り組み

(対象：桐生地区農業指導センター)

- 1 普及活動による成果と残された課題をしっかりと把握することで目指すべき方向性を明確化し、課題の解決に向けて年度計画に反映していきます。

課題 4. 群馬県 1 位の「ナス」産地を目指した栽培技術向上と担い手育成

(対象：桐生地区農業指導センター)

- 1 PDCA サイクルの実践によるナス産地強化と産地 PR による消費拡大等持続的な発展を目指します。

課題5. 施設キュウリ産地の維持・強化に向けた支援

(対象：館林地区農業指導センター)

- 1 来年度、邑楽館林施設園芸等担い手受入協議会で受け入れた研修生のうち、キュウリ農家を目指す新規参入者がはじめて就農する見込みです。農家として自立していける営農計画の作成支援をはじめとした十分なサポートを行います。
- 2 キュウリの安定生産と産地維持を図るため、雇用、環境制御技術、経営の法人化、GAP導入などの講習会や支援活動を実施していきます。
- 3 コロナ禍において、対面では実施困難だった講習会や研修会をリモート技術の活用や動画作成により開催するなど、新しい取り組みを行ってきました。これからも、新たな技術や手法を取り入れながら、生産組織や農家を支援していきます。

課題6. 邑楽館林地域の園芸品目生産振興

(対象：館林地区農業指導センター)

- 1 目標項目は栽培面積のみではなく、担い手育成や事業導入数、選ばれる産地となるための品質向上や安定生産面なども検討し、複数項目設定していきます。
- 2 今回の評価普及課題は、生産振興面に重きを置いた計画でした。今後の地域農業の維持・発展を考えると、担い手の確保・育成の面も重要であると考えていますので、それらをサポートしていく支援事項を検討します。
- 3 米価の下落や耕作放棄地等の対応策として、加工業務用野菜をはじめとした土地利用型農業経営が定着・拡大できるよう、生産者や関係機関の意見を踏まえながら普及計画に反映していきます。